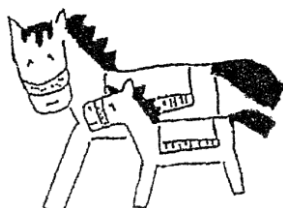


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポッキリ、ポッキリと



22年 6月 NO. 187

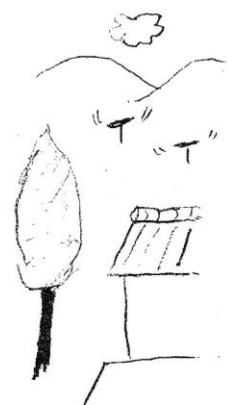
(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

| ～どなたでも～ | | 6月の主な活動 | | ～お気軽にどうぞ～ |
|---------|---|--------------------------|--|-----------|
| 6月 5日 | 土 | 実用書き講座 14:00～16:00 | ボールペン・筆ペン・小筆など、日々の生活に役立つよう練習してみましょう。 | |
| 6月 11日 | 金 | おはなしの会 10:00～11:00 | 季節の行事にちなんだおはなしや紙芝居においで下さい。 | |
| 6月 12日 | 土 | 体験保育 10:00～12:00 | 同じ年齢のクラスに入ってあそびましょう。 | |
| 6月 12日 | 土 | ヨガで身も心も軽く 14:30～16:00 | 肩こりや腰痛軽減にどうぞ。 (託児予約要) | |
| 6月 19日 | 土 | 香川みすゞさんの会 14:00～16:00 | サンポート4F 第1小ホール「朗読と音楽で奏でる金子みすゞ」に行きます。14時～15時半まで。 (現地集合 前売 1000円) | |
| 6月 25日 | 金 | 健康・育児相談 11:00～12:00 | 小児科園医師にゆっくり相談できます。(予約要) | |
| 6月 26日 | 土 | 体験保育 10:00～12:00 | 出産予定の方も育児体験においで下さい。 | |
| 6月 26日 | 土 | ヨガで身も心も軽く 14:30～16:00 | 無理せずできる範囲で体を動かしてみましょう。 | |

・毎火曜日 園庭開放(13時～16時)
・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放しますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みすゞ
第一童話全集4
空のかあさま・下よ

お山の煙よりまだ高く、
ひばりの唄よりまだ高く、
かすんだお空をつき抜ける。
けれどもきつと忘れずに、
ここの小みちへ下りてこい。

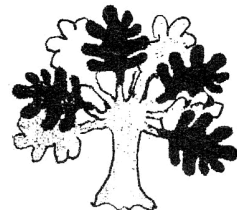
私のかわりの飛びあがれ、
私のけずった竹とんぼ、
私のかわりに飛びあがれ。
キリリ、キリリ、竹とんぼ。
あがれ、あがれ、竹とんぼ。
あがれ、あがれ、竹とんぼ。



竹とんぼ

保護者の本音を聴いてくださ～い！ ～幼保一体化ってなんだろう～

保育園を考える親の会代表 普光院 亜紀



去年は、ついに「保活（ほかつ）」という言葉が登場しました。意味は、保育園に入園するための準備活動のこと。具体的には、保育園探し、見学、申請などの、親たちの「活動」をさします。

ほんの十数年前、「保育園を考える親の会」主催の入園オリエンテーション「はじめての保育園」で、一人の参加者が「保育園に預けて復職したいのですが、夫や祖父母が『かわいそうだ』と反対しています」と話して泣き出してしまい、みんなで「もらい泣き」したこともありました。

それが、今や「保活」と騒ぐ時代。「はじめての保育園」で、私が認可保育園の入園選考の仕組みについて説明すると、パパたちが熱心にメモをとっています。もちろん、待機児童問題の深刻さが響いているのですが、それも含め、子育て世帯の生活を支える保育園は、社会のインフラとして、ますます重要な存在になったことを感じます。

何のための幼保一体化？

認定こどもの園制度が発足したとき、「保育園児も教育が受けられるようになる」と報道されたため、「保育園は福祉施設だから、教育を行っていないのか」という誤解が広がった瞬間がありました。しかし今、以前のような保育園への偏見や誤解は少なくなり、私の周囲の親たちは、「働くから保育園」と考えて、気後れせずに保育園を選んでいると思います。

こんなことを書くのは、「幼保一体化」の議論に、この類の誤解が混じっていることがあるからです。政府の「子ども・子育てビジョン」では、「幼保一体化」を視野に入れた制度改革が謳われましたが、誰のための、何のための一体化なのか、明確にしたうえで議論をしてほしいと思います。

幼保に分かれていては子どもの集団が小さくなりすぎてしまう過疎地域や、保育園の待機児童が増える一方の都市部では、幼保を一体化することのメリットは、確かにあります。しかし逆に、幼保が一体化することのデメリットは、まったくないのでしょうか。「親の会」には、こんな苦情が届いたことがありました。

「次女は、2歳から認定こども園に通っていて、今年の4月から年少組で、幼稚園＋保育園活動になりました。担任が朝夕と日中、バラバラで目が届きにくい、集団教育に重きを置いて遊びが少ないなどがあるように見られます。それと関係があるかどうかわかりませんが、4月から園になじめず、家でも不安定な状況です。

園の個人面談では、『とくに園では問題ない』といわれたので、理事長・施設長と話をさせていただきました。そこでも、わが子のことは『元気がないですか。どうしたんでしょうね?』という程度でした。

こちらから、いわゆる遊びや、保育士と子ども、保育士と保護者のコミュニケーションを増やしてほしいと申し入れたところ、『そのような第三者評価にあるような保育の考え方には反対。評価は来年受けるが、低く出ても仕方ない。集団教育・就学前教育が最も重要。来たい人に来てもらえればよい』ということでした。

保育園を経験した保育者も採用されていないようですし、どうしてこのような園が保育する施設として認可されたのか疑問です。

現状では、保育を受けられると思っていたところで受けられず（園での様子も分からないし、園側は子どもの変化にも気づいていないようです）、相談先もない状況です。

園では、幼稚園を中心にしている（10時～14時）、幼稚園に行く前や保育園に戻ってからは静かに過ごすことにしているようですが、私には、放っておいているように見えます。外遊びは2か月で2回くらい、食事や午睡の様子もわからず、お迎え時の申し送りや掲示もない状況です」（保育園を考える親の会機関紙「つうしんNO. 126に掲載された「おたより」より）

1つの事例から全体を語ることはできませんが、この話の中には、幼保一体化園についての保護者の心配が凝縮されています。

親が安心して働くためには、子どもが園で安定して楽しくすごせることが必要です。そのためには、保育が1日を通した視点から組み立てられていなくてはなりません。保育園では、お昼寝のあと、おやつを楽しみ、午後は午後なりに楽しくすごせるように保育の流れが工夫されていますが、この認定こども園では、その必要性さえ感じていないようです。

ちなみに、私は、保育園には、保育時間の長さをいかす独自の保育文化があると感じています。子どもたちが集中して遊び込む時間を大切にしたり、作業を少しずつ積み重ねて大がかりな「協働」をつくり出したり、栽培・収穫・調理とつなぐ食育活動があったり。それらの活動の中で子どもたちの関係が密になり、子どもが集団で生活している環境をいかした教育が行われていると思います。

この認定こども園では、保育所保育指針でいう「情緒の安定」を配慮する視点が欠けていることも問題だと思います。とくに、低年齢児保育や長時間保育では、「情緒の安定」を配慮していただくことは、食事をとることと同じくらい重要です。

また、子どもが日中生活する保育園と保護者の間には、「連携」が不可欠であり、保育所保育指針にもそのように謳われていますが、この園は、その点に関する保護者の願いも却下しました。

「私学の独自性」を謳う幼稚園と違って、保育園は児童福祉施設であり、「来たい人だけ来たらいい」という「締め出し」は反則です。認定こども園の制度では、そのあたりの理念をどのように整理したのでしょうか。

保育園機能はますます重要に

保育園は、保護者が就労していることを前提に、保護者の負担をなるべく減らすように、行事の日程、やり方にも心配りをしてくれます。一方、幼稚園は、保護者が在宅することを前提に、平日も保護者に園の手伝いや行事に参加してもらい、連携・協働を深めることができるという強みをもっています。就労家庭のニーズ、在宅家庭のニーズはそれぞれに異なっているので、幼保一体化を無理矢理進めて、両方のいいところが消し合ってしまうようにしなければなりません。

とくに、保育園が現在担っている子どものセーフティネットとしての機能（障害児保育、養育困難家庭・経済的困窮家庭の支援）は、ますます重要になりつつあります。子どもたちが生活する保育園では、発達障害や養育困難の早期発見・早期支援が可能です。しかし、これらの機能が発揮されるためには、園に子どもの福祉を担う使命感と専門性がなければなりません。

幼保一体化の議論では、「保育園を3歳児未満児だけにして、3歳以上児は幼稚園に一体化すればいい」という意見もあるようですが、その形では、先にあげた課題は解決されません。現状、日本にある「園資源」とその機能・能力をつぶさに検証し、子どもと家庭の必要性に即して検討していく必要があると思います。

（保育通信 No. 660より）

保育の現場より

園庭でおもちゃで叩かれたと泣いている4歳の男の子に出会いました。その部分を見ると右のおでこに1cm位うすくすじ状に血がにじんでいてもりあがっていました。そばにいた同じクラスの男の子がそのおもちゃを持っていたので、てっきりその子がしたのかと思って「ほら！痛いって泣いているよ」と言ってしまいました。言われたその子は何か言いたそうに目をパチパチして困惑した表情でした。周りに集まってきた子どもや本人が「この子と違う。〇〇ちゃんがしたんや」と言ったのでその子でなかったことが判明。すぐ「わあ、ごめんネ。先生まちごうてしもうたわ。ほんとにごめんネ。」とあやまりました。〇〇ちゃんにはその行為についての原因を聞いたり、お友達がけがするので叩かないなど伝えて傷の手当てをしました。

よく現状も分からないのに、おもちゃを持ってそばに居ただけで加害者と思ってしまったことを申し訳なく思いました。その後、その子に会って、もう一度「さっきはごめんネ。」と言うと、ニコッと笑ってくれたのが何よりのすくいでした。